



レジオネラ肺炎患者のレントゲン写真

主に年配の男性を襲う肺炎 レジオネラ症にご注意！

令和元年10月30日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

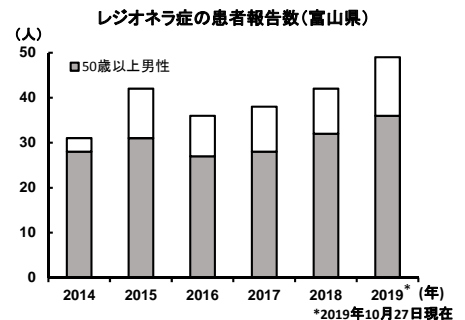
(令和元年第43週分・10月21日～10月27日)

《インフォメーション》

●レジオネラ症

過去5年間における県内のレジオネラ症の報告数は、31～42人で推移していましたが、今年には既に49人報告されています。患者の年齢・性別には偏りがあり、県内では50歳以上の男性が患者全体の7割以上を占めています(図参照)。

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、主に、人工的な環境水(空調システムの冷却塔水や循環式浴用施設の浴用水等)で増殖したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することによって感染します。また、レジオネラ属菌は土壌や水環境に存在するため、レジオネラ属菌に汚染された環境水や粉塵を吸入することによっても感染する場合があります。災害後、浸水した建造物を清掃したり、がれきを撤去したりする際に、環境からの粉塵を吸入することにより感染したと推定される症例も報告されています。レジオネラ症の主な病型として、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と一過性の症状を呈するポンティアック熱が知られています。レジオネラ肺炎は全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、悪寒、腹痛、呼吸困難が見られるようになります。中枢神経系の症状や下痢が見られるのもレジオネラ肺炎の特徴とされています。有効な抗菌薬治療がなされないと死に至る場合もあります。一方、ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛などの症状が見られます。



復旧復興作業のため被災地に向かい、清掃やがれきへの対応を行う際には、防塵マスクを着用するなどして、レジオネラ症への感染を予防しましょう。レジオネラ症は、早期に診断して適切な治療を開始することが重要です。**医療機関においては、尿中抗原キットを用いた迅速診断を行い、早期に抗菌薬治療(キノロン系薬、マクロライド系薬)を行うことが求められます。**

《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 2件 (①第41週診断分：80歳代、男性 ②70歳代、女性)
- 四類感染症 レジオネラ症 2件 (①40歳代、男性、肺炎型 ②80歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 (第42週診断分：60歳代、女性、G群)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 2件 (①第38週診断分：60歳代、男性 ②10歳未満、男性)
- 梅毒 1件 (第9週診断分：40歳代、男性、早期顕症梅毒I期)
- 百日咳 1件 (60歳代、女性)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	3.90(↓)	4.34
2位	手足口病	3.00(↑)	2.55
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.41(↑)	0.83
4位	ヘルパンギーナ	1.31(↑)	0.97
5位	RSウイルス感染症	1.24(↓)	1.52
6位	伝染性紅斑	0.76(↑)	0.52

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（令和元年第43週 令和元年10月21日～令和元年10月27日）

分類	疾患	今週報告分（第43週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核					1	1	22	12	48	26	46	154
三類感染症	細菌性赤痢								1				1
	腸管出血性大腸菌感染症								3	7	5	11	26
四類感染症	E型肝炎							3		2			5
	A型肝炎							2					2
	つつが虫病							1					1
	デング熱											1	1
	レジオネラ症	1			1		2	5		14	11	19	49
五類感染症	アメーバ赤痢											4	4
	ウイルス性肝炎									1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									4	1	3	8
	急性弛緩性麻痺									1			1
	急性脳炎											2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	3	6	12
	後天性免疫不全症候群											6	6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	3	2	6
	侵襲性肺炎球菌感染症			1			1	1		10	9	9	29
	水痘（入院例）							1	2			5	8
	梅毒							2	1	2	1	16	22
	播種性クリプトコックス症											1	1
	破傷風									1			1
	百日咳				1		1	1	5	74	64	97	241
	風しん								1			3	4
	麻しん									1	2		3
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	3	1	2	10	14	30	1,448	943	3,181	1,715	3,764
		0.43	0.20	0.15	1.43	0.88	0.63						
RSウイルス感染症		4	1	14	5	12	36	44	70	306	120	445	985
		1.00	0.33	1.75	1.25	1.20	1.24						
咽頭結膜熱		6					6	187	22	237	50	197	693
		1.50					0.21						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	1	16	1	21	41	119	125	677	253	1,091	2,265
		0.50	0.33	2.00	0.25	2.10	1.41						
感染性胃腸炎		30	13	27		43	113	1,151	909	1,457	480	3,344	7,341
		7.50	4.33	3.38		4.30	3.90						
水痘					1	4	5	19	20	48	16	253	356
					0.25	0.40	0.17						
手足口病		10	16	13	2	46	87	230	265	1,096	282	1,475	3,348
		2.50	5.33	1.63	0.50	4.60	3.00						
伝染性紅斑			4	7	2	9	22	123	76	473	125	685	1,482
			1.33	0.88	0.50	0.90	0.76						
突発性発しん		1	2	4		4	11	32	35	194	42	174	477
		0.25	0.67	0.50		0.40	0.38						
ヘルパンギーナ		1	6	13	14	4	38	149	124	337	88	291	989
		0.25	2.00	1.63	3.50	0.40	1.31						
流行性耳下腺炎								4	7	10	1	24	46
急性出血性結膜炎											13		13
流行性角結膜炎					1	1	1	10	31	29	10	81	
					0.50	0.14							
細菌性髄膜炎									1		4	5	
無菌性髄膜炎							2	1			1	4	
マイコプラズマ肺炎								6	8		1	15	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							1		8	7	2	18	
インフルエンザによる入院患者（*）							1		2	3	4	10	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じる場合があります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)～の集計です。

インフルエンザ定点における患者診断状況

このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

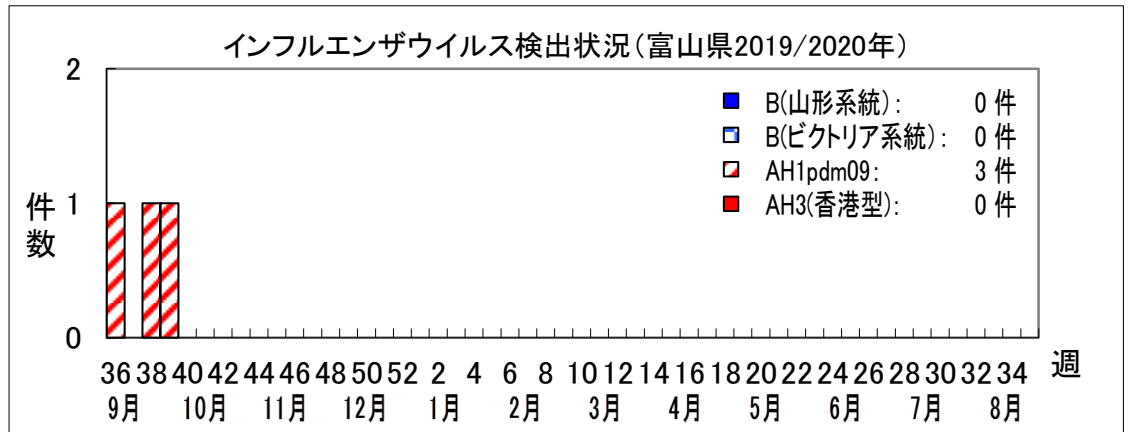
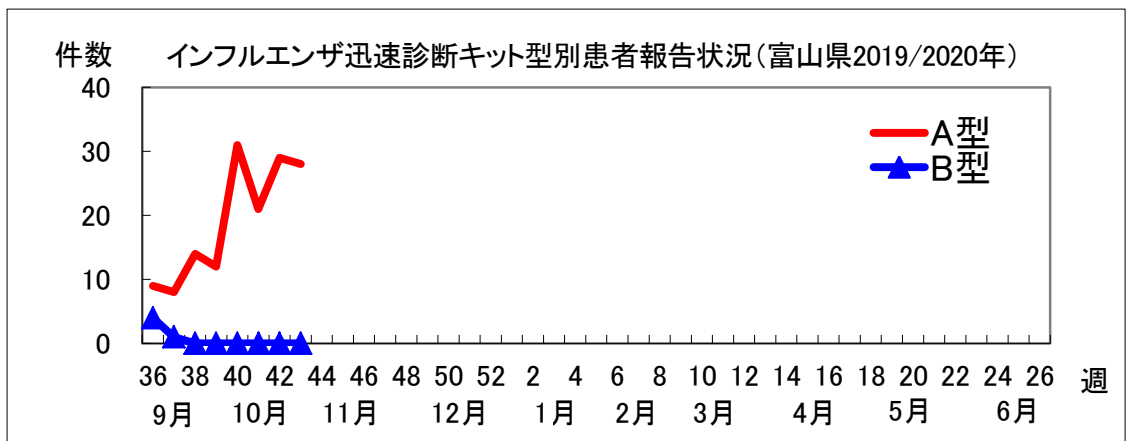
現在、下の表によると、A型が93.3%となっています。

第43週(10/21～10/27)：富山県 0.63人/定点

(単位:件)

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 ^{※2}	合計
		A型	B型		
新川	2 / 7	3	0	0	3
中部	1 / 5	1	0	0	1
高岡	1 / 13	2	0	0	2
砺波	3 / 7	10	0	0	10
富山市	6 / 16	12	0	2	14
富山県	13 / 48 ^{※1}	28	0	2	30
富山県累計(2019年36週～)		152	5	10	167

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が13か所あったことを示します。
 ※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



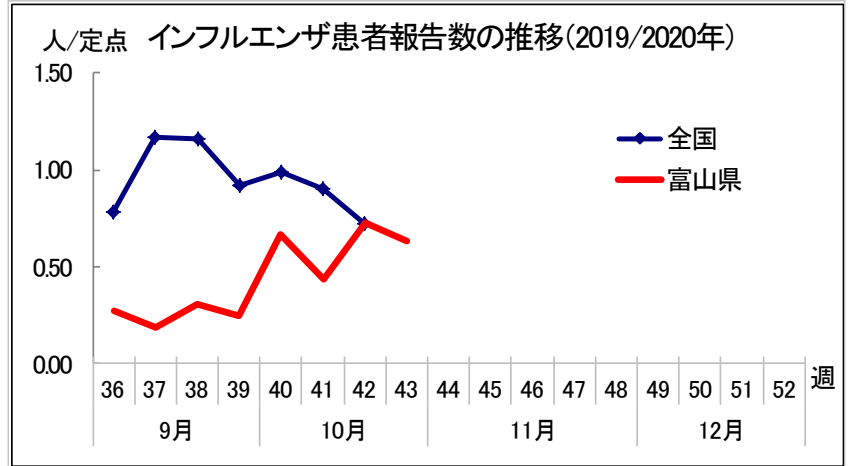


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第 43 週 (10/21~10/27) : 富山県 0.63 人/定点

新川 HC (0.43)、中部 HC (0.20)、高岡 HC (0.15)、砺波 HC (1.43)、富山市 HC (0.88)

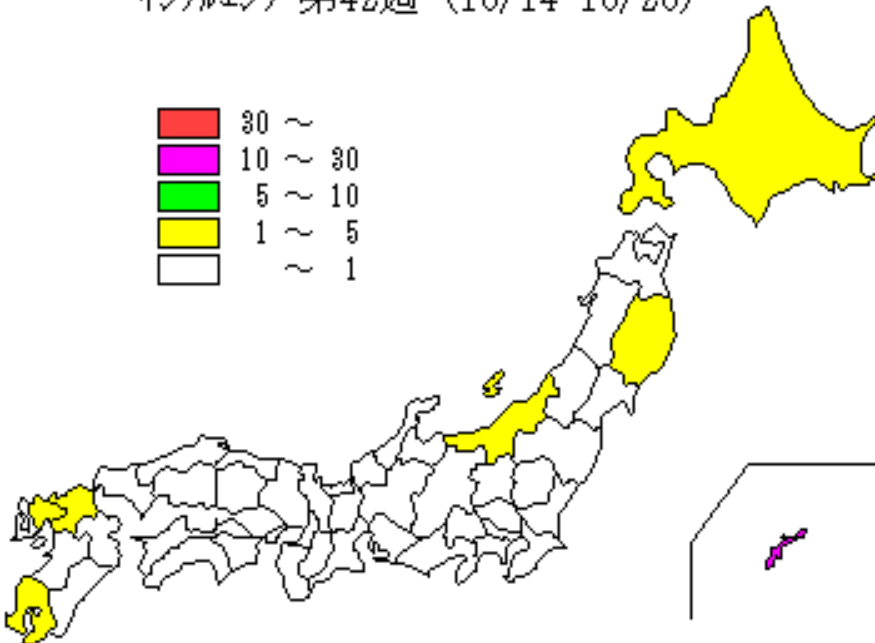
県内のインフルエンザの患者報告数は、先週(0.73)と比べ減少しました。流行入りの目安である定点医療機関あたり 1.00 人を超えていませんが、学級閉鎖が累計 2 件報告されています。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第 42 週 (10/14~10/20)

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 0.72 人となり、前週の 0.90 人より減少しました。17 道府県で前週より増加しています。29 都府県で前週より減少しています。

インフルエンザ第42週 (10/14-10/20)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	1.16	滋賀県	0.19
青森県	0.12	京都府	0.48
岩手県	1.22	大阪府	0.23
宮城県	0.28	兵庫県	0.16
秋田県	0.30	奈良県	0.29
山形県	0.24	和歌山県	0.02
福島県	0.84	鳥取県	0.07
茨城県	0.48	島根県	0.68
栃木県	0.24	岡山県	0.12
群馬県	0.17	広島県	0.97
埼玉県	0.38	山口県	0.28
千葉県	0.46	徳島県	0.05
東京都	0.59	香川県	0.09
神奈川県	0.77	愛媛県	0.62
新潟県	1.18	高知県	0.08
富山県	0.73	福岡県	1.18
石川県	0.88	佐賀県	1.76
福井県	0.38	長崎県	0.86
山梨県	0.66	熊本県	0.90
長野県	0.10	大分県	0.47
岐阜県	0.26	宮崎県	0.61
静岡県	0.32	鹿児島県	2.15
愛知県	0.44	沖縄県	13.62
三重県	0.23	全国	0.72